



大いなる不思議を 行なわれる神さまに 感謝!

中沢 秀
(神奈川県在住)



私は大正6年に福井の大実業家のクリスチャン家庭に8人兄弟の第4子として誕生しました。3歳の時に同業家の中沢家の養子となり、未信者の家庭でしたが、何不自由無い環境で成長しました。

20歳の時、恋愛結婚に至りましたが、実母は私の将来を案じて、婚約式の時に聖書と賛美歌を贈与してくれたのです。しかし、私は10年間、それを全く開く事も無く、結婚生活を送り、主人の満州進出と事業進展に、自らの

幸せを喜んでおりました。だが主人の応召、終戦後の満州生活、引揚途中での三女の死などを経験し、戦災地福井で老母に迎えられて帰国した時、初めて人生の無常を覚えさせられました。

夢

破れて、苦しい生活、ソ連に抑留された主人はいつ帰るかわからぬ日々、こうした苦悩をまぎらわすために、家事、子育てを放って、近所の奥様方とダンスホールに通い出すまで身を落としてしまいました。

無軌道な私の生活ぶりに、周囲の者

達は驚きあきれいていた様に思われます。見かねた母は、私に近所の教会に出席してみるように勧めました。母は福音を信じていたわけではなかったのですが、教会で信仰の話でも聞けば、私の行いも改まるのではないかという考えからだと思わ

れます。

私

は仕方なく、集会に出てみました。席に座ってしばらく経つうち、経験したことのない、名状しがたい空気を感じたのです。お話の内容はよくわからないのですが、自分の罪深さを知らされ、涙が出て来るのをどうすることもできませんでした。その夜はそのまま帰りましたが、翌朝になっても食事美味しくなく、部屋を掃除しながら、まだ前夜の集会の事を考えていました。そのとき、「いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません」(ヨハネの福音書6章63節)という

お言葉が、私の心に望んだのです。天来の声でした。私はその場に棒立ちになって「神さま、分かりました。このことがわかった以上、もうためらってはいただけません。今、十字架を信じます」と心の中で叫びました。まだ何もわかっていませんでしたが、この瞬間から私の生活は改まり、「神の子とされた」確信が与えられました。

それからというもの、集会が慕わしく、祈りは楽しく、聖書のお言葉は開かれてきて、汚れた生活は一変してしまいました。母や周りの人たちは、私の変わり方の激しさに、じっと目を見張っておりました。私は早く洗礼を受けたく、今までの罪を一つ一つ思い出すままに書き連ねて、先生に祈って頂きました。そして昭和23年3月、洗礼の恵みに浴しました。

その後は、福井の大地震の中も無事に守られ、主人もソ連から帰国しました。そして、奇しい救いの御業は主人にもおよび、更に、年老いた母にさえ至りました。3人の娘達も救われて受洗し、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」(使徒の働き16章31節)とお言葉の成就を見せて頂きました。また、家庭集会を開き、信じる方々が興され感謝でした。

北

陸の地から、1977年、湘南に移り住み、今日まで、神さまの恵みのうちに信仰を育てて頂きました。30歳で信仰を持ち、以来70余年、色々なところを通りましたが、神様と共に歩む人生は、幸いでした。

最近、肩を骨折し教会に行けなくなるかと思いましたが、奇跡的に癒され、再び礼拝に集い、素晴らしい天国への希望に溢れる日々を感謝しています。



上：礼拝で証しをする中沢さん
下：教会の友人と共に

一〇三歳、日々あらたにされつつ、神さまと共に歩む人生は幸いです